

2014 年 7 月 4 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 清水谷 卓

トルコ国 可変速揚水発電所建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時 2014 年 6 月 27 日(金)14:00～16:30
- ・ 場所：JICA 本部(111 会議室)
- ・ ワーキンググループ委員：清水谷委員、二宮委員、松下委員
- ・ 議題：トルコ国 可変速揚水発電所建設事業準備調査に係るスコーピング案
についての助言案作成
- ・ 配布資料：トルコ国可変速揚水発電所建設事業準備調査スコーピング案事前
配布資料
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010 年 4 月）

全体会合（第 49 回委員会）

- ・ 日時：2014 年 7 月 4 日(金)14：30～17：05
- ・ 場所：JICA 本部（会議室：1 階 113 会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 水利用による環境への影響を評価し、本事業が自然資源を持続可能な形で利用する事業であることをドラフトファイナルレポートに明確に示すこと。
2. 夜間と昼間の電力需要の差を客観的に示すデータをドラフトファイナルレポートに記述すること。

代替案の検討

3. 送電線、上部調整池、土捨て場、工事用道路、村と村を結ぶアクセス道路について、代替案評価を行い、ドラフトファイナルレポートで記述すること。
4. 上部調整池造成に伴う土地の掘り込み、掘削による土砂の処理計画及びその影響につき十分調査し、影響を軽減するよう配慮すること。また、遮水壁造成による影響も同様に調査すること。

スコーピング・マトリックス

5. 発電所および関連施設におけるスコーピング結果の「地形・地質」の評価理由に関して、工事用アクセス道路法面等での土壌侵食の可能性に加え、「地形により土捨て場においても土壌侵食の可能性がある」ことを追記すること。
6. 発電所及び送電線に関する「越境の影響及び気候変動」の「工事前・工事中」の評価については「C-」とし、その影響を評価してドラフトファイナルレポートに明記すること。

環境配慮

7. 供用時の地下水枯渇の可能性につき調査すること。
8. 上部調整池周辺の家庭排水や牧畜の実態について調査を行うこと。

社会配慮

9. 用地補償・移転費の算定を簡易住民移転計画に基づき行うこと。
10. トルコの土地収用法・移転法と JICA ガイドライン・世銀セーフガードポリシーとのギャップの有無を確認し、適切な対応を行うこと。
11. 社会経済調査により、非自発的住民移転の件数・用地取得により影響を受ける世帯について正確に調べて、その対策に活用すること。

ステークホルダー協議・情報公開

12. 実施機関及びステークホルダーとの協議等を通じて、上部調整池及び捨土処理による地形改変に対する対応策の必要性について確認すること。

13. 水利用・捨土処理に伴う環境への影響評価の結果をステークホルダーに説明し、十分な理解を得ること。

以 上